



かしわの

No 508 (4月号)
令和5年 4月 6日
調布市立柏野小学校
校長 浅野 正臣

<http://www.chofu-schools.jp/kasiwano-sho> mail:kasiwano-sho@chofu-schools.jp

マスクをはずしたその先は！

校長 浅野 正臣

令和5年度が始まりました。今年度は、新入生114名、全校児童590名、教職員52名学級数20と特別支援教室でのスタートです。全教職員でお子様の成長の支援をさせていただきます。

さて、文部科学省より新学期以降のマスク着用の考え方の見直しについて通知が出されました。調布市でもこの通知を基本に対応をすすめています。これによると、令和5年度は、学校教育活動では特別な場面をのぞき、マスクの着用を求めないことが基本となりました。新学期はマスクをはずした学校生活がスタートします。

マスクをはずした学校生活にはどのようなことが起こるのでしょうか。まず、考えられるのが表情による感情表現です。「目は口ほどに物を言う」ということわざもありますが、ここ数年の生活の中で目だけによる感情の伝達には限界を感じたこともありました。児童同士もお互いの気持ちを十分に汲み取れないことがあったと思います。「笑顔」のように分かりやすい表情もありま

すが、「口角が少し上がる」のように分かりにくいけど大切な表情もあります。今までとは違う表情に戸惑いながらもいろいろな感情表現が見られるようになると思います。

次に考えられるのは、「声」による表現です。音楽の授業では、向かいあつての歌唱はできませんが、配慮をしながら全員で歌唱することが可能になります。自分の声と友達の声が重なる感覚を感じたり、声による空気の振動も感じたりできるのかなと期待は膨らみます。

一方で、感染対策を始めマスクをはずすことへの抵抗がある児童や「つけていたい」と考えている児童もいると思います。「はずすこと」「つけること」どちらも選べるようにしていきます。

マスクをはずした先には、今まで通りではなくまた違う世界が生まれてくるという気持ちで教育活動を進めてまいります。

はじけるような笑顔が数多く見られるように、今年度も保護者と地域の皆様のご理解とご協力をお願いします。